

エウロフィア ボウリアウオンゴ (*Eulophia bouliawongo* (Rchb.f.) J.Raynal) の初開花について

上野明楽・磯部実

はじめに

エウロフィア属は日本を含む世界中に分布しており、現在 282 種類が記載されているラン科植物である。同じ属の中で、他の植物に着生して生育するもの、地面に根を張り生育するもの、菌を栄養とし生育するものといった3つの生活形態を持っていることが特徴である。

本種はアフリカの中部に分布し、地面に生育するタイプであり、一枚の葉の長さが2 mを超える世界最大級のランであるが、国内での栽培例および開花例が少なく、存在をあまり知られていないランである。

本個体は茨城県在住の趣味家より 2024 年 10 月に広島市植物公園に寄贈されたものである。同個体の本園で開花したため報告する。

栽培と管理

栽培温室 9 号棟と大温室東口付近に 1 株ずつ置いて栽培した。どちらも最低気温が 15℃を下回らない環境であり、本種は水と日光を好むと聞いていたので、植え込み材はクリプトモスと水苔を半分ずつ混ぜたものを使用し、受領時に植えられていた鉢にそのまま植え替えて管理した。灌水は地表面が少し乾いて鉢の内部が乾ききる前に行った。また灌水の際に市販の化成肥料（ハイポネックス原液 6-10-5、ピーターズ 10-30-20）を 6000~10000 倍の濃度で希釈し、新芽や根の動く春先から秋まで毎回与えた。

日当たりは大温室では無遮光、栽培温室では 50% 遮光下で管理し、夏季は太陽の高さの関係で 8 時から 17 時半頃まで、冬季は 8 時から 16 時頃まで日に当てた。

葉焼けなどに注意しながら栽培したが、猛暑であったにもかかわらず葉焼けすることもなく健全な生育が確認できた。

発蕾と開花

7 月 12 日に大温室で管理している株に花序の発生を確認した（写真 1）。重なった葉の一番外側の葉の内側から花茎が伸長し、一番花は 8 月 5 日に開花した（写真 2）。最初に開花した個体は

3 花茎同時に開花した。最終的には花序の付け根から順に開花が進み（写真 3）、一花の開花期間は 10 日程度で、最大 21 輪同時に開花し、最終的には一花径に 45 輪着花した。花茎の先端は鉢の表面から約 240 cm 程度伸び、一輪の自然開張幅（直径）は約 4 cm となった（写真 4）。花粉塊は一つにまとまっていた（写真 5）。

考察

本種は開花時期が不定期であり、葉の伸長が止まると花茎の伸長が始まることが分かった。また、バックバルブを 2 つ程度残した小さな株でも開花し得ることがわかった。また、夏に無遮光でも葉焼けをしないことも確認できた。

一方で、葉が風など横からの力に弱く、一度折れてしまうと元に戻らないため、強風下や高水圧での灌水には注意が必要である。本種に近縁でアフリカに分布する種のほとんどは日本に入ってきておらず、今後も入手が極めて難しいことが予想されるため、本種もバックアップ用に株分けをするとともに、種子での更新を考えており、開花した株の人工授粉と無菌播種を考えている。このように大きくなる種がどんな過程を経て育つのが興味深い。

今後の導入の見込みが低い貴重な種なので株を健全な状態で栽培、保存できるよう努める。

展望

本種を寄贈していただく際に前もって株の状態を確認しに伺った際、葉の長さだけで約 230cm あり、非常に大きな印象を持った。栽培状況を聞いたところ、温床マットの上で鉢を温めていた。

当園でも置き場など栽培条件をこれからも改善していく必要がある。

当園で今後もラン科植物を適切に保有、保全していくためにも全国の植物園や植物愛好家などと協力し、情報共有を進めていく必要があると感じた。

最後になりましたが、本株の寄贈、栽培助言等をしていただいた全日本蘭協会会長 斉藤正博氏に心から感謝申し上げます。



写真 1 蕾の発見



写真 2 開花した個体の撮影



写真 3 開花の様子



写真 4 展示例 8月から無遮光で展示した。

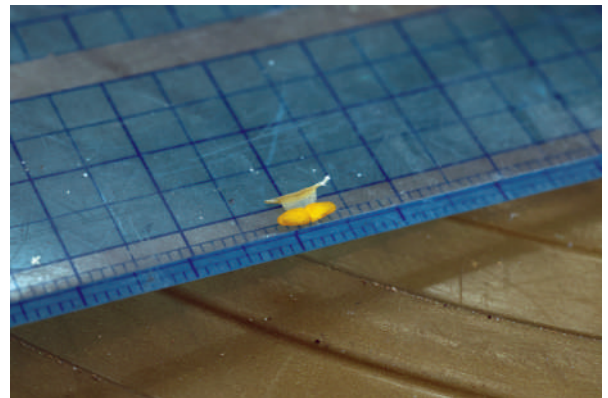


写真 5 花粉塊